

モーリシャス豆知識・小話 第9号

2018年1月

在モーリシャス日本国大使館

(1) 丸腰のお巡りさん

2017年12月、当国で初となる天皇誕生日祝賀レセプションを開催しましたが、両国国歌はモーリシャス国家警察音楽隊（ポリス・バンド）に生演奏をお願いしました。君が代演奏、見事でしたよ。きっと何度も練習したのだろうなあ。その印象のせいだけではないでしょうが、これまで他の途上国勤務で、（言い方はよくないですが）警察なのか単なるタカリなのかわからないような警察官に遭遇してきた自分の目から見ると、モーリシャスの警察官は本当に立派です。毎朝渋滞の道路で淡々と交通整理を行い、町中をパトロールし、要人を警護する、警察官の業務としては当たり前でしょうが、見ていてその動きや言葉に信頼感が沸きます。

そんな警察のトップである警察長官に、先般、加藤大使の長官表敬に同行してお目にかかりました。「私は JICA 研修で日本に行きましたよ。もう数十年前のはなしですけどね。日本の交番制度は素晴らしいシステムです。是非我が国の若い警察官達にも日本の警察で研修を受けてほしい」と精悍ながら親しみのある笑顔で長官はそう述べていました。聞けば隣にいた副長官も JICA 研修生 OB だとのこと。若いときに訪日し研修した経験を持つ人たちが自国を支えるリーダーになって活躍している、モーリシャス警察の優秀さに日本も少し貢献している、そう実感できるのはなんとも嬉しいことです。

ところで在留邦人の方々はご存知と思いますが、この国の警官はパトロールするときでも検問するときでも、いつも丸腰だそうです。「我々は極めて特別な時しか拳銃は所持しない、この国で治安を守るのに拳銃は必要ない」、長官は誇りを持ってそう説明してくれました。最近、待遇改善などを求めて警官のデモもあったようですが、そうだよな、と共感できるような働きをこの国の警察官はやっているはずですよ。いつまでも「インド洋の貴婦人」の治安をしっかりと守って行ってもらいたいですね。



ポリスバンド

(2) 今年目標

皆さん、今年目標は立てましたか？そういう大使館は？といわれれば、うん、今年（2018年）はモーリシャス独立50周年、日モ外交関係樹立50周年の節目の年なので、やはりそれにふさわしい友好関係飛躍の年にしたいですね。政治、経済、文化、様々な面で関係をレベルアップして行けたら、なんてそんなことを夢見しています。

実際、今年はそんな予感を抱かせる芽がもう出つつある、そう思っています。近々、大使公邸も設置できるでしょうし、大使館もなんとか本事務所に移る予定です。経済ミッションも計画されていますし、政務の出張もそのうちまたあるかもしれません。文化イベントも次第に増えていくでしょう。

中でも期待したいのが、現在我が国の無償資金協力でトゥル・オ・セルフに建設中の気象レーダーサイトの完成です。きっとこの国の気象予報、災害対策に大きな効果を発揮することでしょう。それだけに完成はしっかりお祝いしたいもの。予定では本年9月頃ということで、完成の暁には二国間関係を十分にアピールできる式典を実施したいと今からいろいろ考えています。

そのうちのアイデアの一つとして、ここで皆さんにこっそり教えてしましますが、日本の桜の苗木の植樹式を実現したいと思っています。あの火口の縁に日本の桜。たくさん植えればさぞかし映えるでしょう。うまく行けば将来、当地で日本並みに花見ができるかも。米国ワシントンのポトマック河畔の桜は有名ですが、目指すはそのモーリシャス版、火口沿いの桜！です。きっと更なる観光名所になることでしょう。

ただ、植物検疫や搬送等、実現にこぎ着けるまでにクリアしなければ問題は山

ほどありそうです。輸入の許可がもらえるかということの他に、気候も日本と違うので本当に根付くのかという心配もあります。予算の問題ももちろん。断念、という影が早くも頭の中をちらほらしないわけでもありませんが、モーリシャス人に日本の桜を愛でる機会をあげたい、両国国民がより親密になるシンボルにしたい、その一念を大切にしたいと思っています。皆さんもこのプロジェクト、できれば一株オーナーになって一緒に成功させませんか。これまで50年続いてきた両国の友好関係が更にこの先50年、100年と続いていくことを願うシンボルとして、在留邦人みんなからモーリシャスの人たちへの心からの贈り物。そうできたらいいな、なんて思います。もちろんめでたく植樹にこぎつけてもきつとすぐに花が咲くわけではありません。しかし、10年後、20年後でも、いつか、サクラサク、文字通りそんなニュースがモーリシャス国内を駆け巡り、日本まで届く、それが今年始めに当館が思い描いた夢、立てた目標です。



気象レーダーサイト